東京八王子プロバスクラブ

プロバスだより

第126号

編集・発行・情報委員会

２００６．５．１１

http：//www.tokyo-hachioji-probusclub.jp

2005・7～2006・6 テーマ『夕やけのまちの明日を照らそう』

第１２６回例会

日　時：平成18年４月13日（木）12：00～13：20

場　所：八王子エルシィ

出席者：56名　88％（会員総数64名、うち休会1名）

1．徳永例会委員長の司会で定時開会

2．大野会長挨拶

今年は１月から強い寒気や雪害が続き、先日も寒い日がありましたが、甲州街道の銀杏もようやく芽生える季節となりました。生涯学習サロンも中日を迎え、全員で力を合わせて頑張りたい。本日は八王子南ロータリークラブの20周年記念行事に是非皆さんに出席いただきたいということで鈴木会長が出席されています。この件につきましては、前回の例会時にお話ししましたが、歯切れが悪かったと反省しております。過日パスト会長会を開催しましたが、その折、南ロータリークラブにはたいへんお世話になっており、先般の１０周年記念行事には全員登録の態勢での協力をいただいているので、当会もこれに応える態勢をとるべきではないかとの意見を頂戴しました。また杉山会員のご尽力もあって当会員の参加費についても格別の配慮がなされています。４月２６日の記念行事には全員登録の態勢で望みたいので、皆さんの協力をあらためてお願いします。　また、去る４月１日の立川会員他の皆さんが関係する八王子フィルハーモニー合唱団特別演奏会が盛会裡に開催された由、お祝い申し上げます。よい気候となってきたが健康に留意され元気に過ごしていただきたい。

3．来賓紹介・挨拶

八王子南ロータリークラブから鈴木会長、広瀬副会長、遠藤プロバスクラブ担当委員長の3名が出席

鈴木会長挨拶

本来なら毎回出席すべきなのだが、ご無礼の段お詫びします。お願い事のときだけ顔を出すのは心苦しいのですが、先ほど大野会長が話されたように東京八王子南ロータリークラブは来る4月26日(水)に20周年記念行事を実施します。ご案内のように「防犯・防災に強い安全・安心な町」をテーマに取り組んでおり、すでにミニパトカー等は八王子市に寄贈済みで、過日ガバナー賞もいただきました。当日は式典、講演会、懇親会等多彩な行事を予定しており,お忙しい中とは思いますが、皆さんの参加を是非ともお願いする次第です。なお、梶原20周年記念行事実行委員長も本日参上してご案内申し上げる手はずになっておりましたが、足の怪我のため欠席となり、皆さんによろしくお願いして欲しいとのことであったので申し添えます。

4．幹事報告（佐々木幹事）

・南ロータリークラブ20周年記念行事参加勧誘の件に関しての不手際をお詫びする。記念行事は式典、講演会、懇親会で4月26日(水)午後4時に開始。参加登録受付は午後3時30分から。前例会で実施した参加表明者は約30名であったが,先ほど会長から要望があったとおり,当会は全員登録の方針で対処するので、協力願いたい。なお、参加費は本日例会終了後、下田副幹事、徳永例会委員長が徴収する

・会員名簿を本日配布。従来名簿は1月1日現在で更新し、以後の加入、退会は会員各自で補正する申し合わせになっているが、市内局番の変更に伴い、備考欄の字句に整合性を加えたとともに、60余人の会員の索引機能を付して50音順に編集してみた。会員番号はすでに定着したものとなっており、変更していない。なお、名簿の取り扱いについては部外秘と印刷していないが十分注意して欲しい。余談だが、過日何らかの名簿から抽出したと思われるいかがわしい電話被害を私も受けた

・本日のサロンには読売新聞の記者が取材に見える予定

5．委員会報告

1）地域奉仕委員会（永井委員長）

・生涯学習サロンの閉講式とさよならパーティの出欠調べ用紙を配布したので、例会終了後提出されたい

・閉講式とさよならパーティの内容については矢島委員が説明。特別講話は原嶋宏昌八王子気象の会代表の「八王子の地形と気象」。さよならパーティ「我が青春のグループサウンズ」の出演は2002年誕生の「三軒茶屋ブルーシャトウ」。皆さんで歌える曲も演奏予定につきお楽しみに

2) 研修委員会（八木委員長）

前の例会で発表した6月の総会の後の歌う会企画は中止。ご迷惑をかけました

3)会員委員会（野末委員長）

現在進行中の新会員候補は2名だが、他に候補者があれば推薦して欲しい

4) 情報委員会（橋本委員長）

・プロバスだより125号を発行した。投稿原稿については重ねて協力をお願いする

・125号で「東京八王子プロバスクラブ」のホームページの案内を入門コース的に紹介してみた。記録であるプロバスだよりは1ヶ月の後追いだが、ホームページは速報性があるので活用されてはいかが

5) 例会委員会（徳永委員長）

・次回プロバスサロン第4週は４月27日（木）14時より。ただし「野外で楽しむデジカメ講座」は現地(国立昭和記念公園西立川エントランス前)13：30集合

・さよならパーティ参加費4000円徴収

・5月11日の例会はバス車中で開催

6. 全日本プロバス協議会情報　（立川会員）

・4月1日に群馬県の沼田中央ロータリークラブがスポンサーとなって沼田プロバスクラブが会員34名、全国92番目のクラブとしてスタート

・6月に予定していた全国集会は準備の都合で9月10日(日)に延期

7. 各同好会等

・ゴルフクラブ　5月18日武蔵野カントリークラブで南ロータリークラブと合同開催。24名参加

・お茶の会　本日のサロンのため、エルシィ５階に立派な茶席ができた。終了後にぜひお立ち寄りを

・囲碁クラブ　5月5日（祝）午前9時より台町市民センターでの大会は参加者16名

・お礼　立川会員から4月1日の八王子フィルハーモニー合唱団特別演奏会に多数お出かけいただき感謝申し上げる。12月にも予定しているのでよろしく

8. プロバスソング斉唱

9. 閉会挨拶　濱野副会長

昔の商人は2月は「逃げる」、3月は「去る」と季節の推移を表現した。もう4月、相撲の世界ではないが、サロンも中日を迎えた。今年も全勝で給金を直すように頑張りたい。次回は野外例会、元気に揃って出席して欲しい。重ねて申し上げるが、4月26日の南ロータリークラブ20周年記念行事には皆で参加しましょう。

投稿　自分の身は自分で守る

杉山友一

４月の例会時に、石井實情報委員さんから、重くないテーマで2,000字くらいとお声が掛かりました。そこで、丁度良い機会ですからこの際紙面をおかりして皆様の注意を喚起しておきたいと思います。

私の日頃のボランティア活動のひとつは防犯です。国や都や八王子市が、それぞれのレベルで毎年行なっている意識調査では「体感治安」の改善要望が常に第一位となっています。そうしたなかで、我が八王子でも、近年漸く「警察」「行政」「市民」による協働の関係が構築されて顕著な成果を収める様になってきました。活動の中での私の実感から言えば、人は注意力を喚起し、日常生活上の安全意識を高めてさえいけば、事件や事故の被害者にならずにすむ確率は大幅に高まる、ということです。

身近な話、空き巣被害の30パーセントは、事務所や家の小窓などの鍵の無締りですし、ひったくり被害者の大

多数は女性の手提げバックの管理の不始末からです。交通事故被害もまた同様です、特に高齢者の注意力を欠いた意識の低さが問題になっています。

被害者に共通する言葉は、決まって<まさか自分が被害者になるとは思わなかった>という台詞です。

さて、八王子の管内の科目別状況は概略以下のとおりです。

区　分	面　積	居住人口	世帯数	外国人
八王子署管内	95,19 km²	370,286人	157,911世帯	5,284人
高尾署管内	91,12 km²	166,361人	70,946世帯	2,744人
合　計	186.31 km²	536,647人	228,857世帯	8,028人

八王子市内では、年間約9,200件の刑法犯罪（認知件数）が起きていますが、例えば昨年の強盗事件発生は26件ですが、八王子署管内が25件、高尾署管内が１件です。

したがって八王子署管内は犯罪抑止の重点地区ですから所属の警察官の数も今や650人を越えました。それでも、内勤者や交代勤務制を勘案すると、警察官一人当たりの持分は400世帯、住民1,000人位にあたります。

つまり、極論をいえば、警察は治安の最終責任者ではあるけれども、いつ起きるか分からない多種多様な事件の前に、全ての市民に安全安心を提供し続けることは到底出来ないということです。したがって現場レベルでは、「自分たちの街は、自分たちで守る」という市民の立ち上がり、防犯意識の高揚に期待するしか方法はないのです。

幸い八王子市では、我々市民サイドの要望を受け入れて、平成15年度から市の生活安全行政が大きく進化してくれました。それなりに「人」・「物」・「金」・「情報」が張り付いて犯罪抑止効果をあげています。ちなみに、個人レベルでも、八王子市の「暮らしの安全安心課」にメールアドレスを登録すれば、例えばどこの地域にこれこれの不審者が出没している情報があるので注意をしてください等々、警戒のための関連情報を流してくれたりもします。

一方市民の側では、管内の町会自治会を12の地区防犯連絡協議会に括り、傘下に353の支部を構成して活動を盛り上げているところです。例えば、市民ボランティアによるパトロール隊なども、現在では145団体、登録隊員8,000名の方々がそれぞれの地域で活動を展開してくれています。

このようにして「警察」「行政」「市民」による防犯トライアングルは、大枠ではここ３年間の刑法犯罪の減少という形で大きな成果を上げているのですが、内訳で言えば、唯一増加の一途を辿っているのが「おれおれ詐欺」を始めとした「振り込め詐欺」の類なのです。去る4月13日の例会では、佐々木幹事さんも電話でアプローチを受けたと話されていましたが、この手の市内の被害は、平成17年度が66件で被害額は１億円でしたが、今年はわずか３ヶ月で既に33件発生して、被害額が4,950万円となっています。驚くべきハイペースでの増加です。皆さんはそんな馬鹿なとお感じになるでしょうが、ある日突然身内の者が危険に曝され、今すぐならお金で解決、とふき込まれればご家族は誠に弱い立場に追い込まれます。<まさかそんなたわいない話から自分が被害者になるとは思わなかった>といって被害者になっているのです。携帯電話もあらゆる機能を熟知した犯罪者にとっては絶好のツールになっています。くれぐれもご用心くださるようお願いいたします。

投稿　第１０回プロバス生涯学習サロン

石井　實

一般会員７８名が募集に応じ第10回プロバス生涯学習サロンは平成18年２月23日例年どおりエルシィを舞台に開講された。今回は１月９日朝日新聞で「学びながら仲間づくりを」と紹介されたこともあって、新規参加者28名と多いことが目立つ。

カリキュラムの構成は第４回学習サロン以降変更がない。日玉のサロンだけに限れば４者択一は第１回学習

サロンから踏襲されていて最早定着してしまっている。四択については第５回学習サロンの時一般会員代表が閉講式で「他に参加したい講座があっても選べない」と改善提言をした経緯がある。過去９回の代表挨拶の中でこれほど辛い内容のものは他に記憶がない。学習サロンは何のため、誰のためという原点に立ち帰れば、組織の理論だけで片づけてしまってよいのかという疑念も残る。しかし、アンコール物を探し出す努力もデータもない。事業の斬新さを保ち継続性を維持するためには常に原点に戻る態度が必要と思う。

今回の学習サロンも４回に及ぶサロンは四択で表面的には不変だが、内容的には過去にないチャレンジが見られる。第一はパネルディスカッションの登場である。この構想は第３回学習サロン当時からあった物だが、テーマ、パネラーの人選等から日の目を見ぬまま置かれてきたジャンルである。今回のテーマは「魅力ある学園都市づくりにむけて」、パネラーは市、大学、学生の三者からの人選。確かに八王子市は大学の都心回帰や少子化という逆風の要因はあるものの、これだけの大学等が集まった地方都市は全国他になく、産学官の協働による活用から地域の活性化を目指すことはまちづくりの一つの断面であろう。広辞苑によれば、パネルディスカッションとは「討議する問題について通常数人の対立意見の代表者が聴衆の前で論議を交わすこと」とある。始めの基調講話から対立意見の開陳が必要で、それなくして聴衆の参入は難しくなる。今回コーディネーターは、市のとっている方向性を是として更にこれを推進するには市民の側からの努力が必要と考え、そのための場を提供し、啓蒙したいというスタンスが強かった。しかし、ディスカッションに期待して参加した聴衆は欲求不満が残ってしまう。非政治的、非宗教的、非営利的原則はクラブの基本的スタンスを律するもので、ディスカッションに政治性の排除は無理な面があり、どこまで踏み込めるのか組織としてのコンセンサス作りも必要であろう。

第２はお茶の会。インフォーマルグループのサークル活動をクラブの下部組織として認知したのは2002年度のこと。以後同好会メンバーが精進を重ね茶の心を学んだ結果、同好会メンバーがそれぞれの立場で茶席に来られたお客（サロン会員）を心からもてなし至福の一刻を分かち合うという試みである。成果発表会という落とし穴に気をつけねばなるまい。

最後はデジカメ撮影会。デジカメの写し方講座は過去２回実施済み。コニカのフィルム産業からの撤退に象徴されるようにデジカメ移行が大勢となった昨今、撮影してすぐ再生できる利点を活用して楽しみながら技術向上を図ろうとするもの。しかし、所謂カルチャースクール物に対してプロバス色をどう出すのかが問題。被写体豊富な戸外で随所に写真同好会員有志を張りつけたものの自然現象の天候次第、雨天で室内撮影となると被写体も限定されてしまう。作品を全員で評価しあうまでは無理としても再生するためのパソコンの用意は十分か？限られた時間内で参加者一人ひとりに充足感を持って貰えるだろうか等々クリアーせねばならぬ問題は山積している。

１０年目にして初めて生じたチャレンジである。プロバス会員でなく一般会員の評価がどうなのかは今から楽しみなところだ。

同時に結果はどうあれ新しく生じた芽を無下に摘み取ることなく、反省検討を加えて育むとともにチャレンジの機運を大事にしていきたい。

各界OBとテーブル囲む

「生涯学習サロン」（八王子市）

リ・スタート

大手メーカーの元役員や教員、医師、法曹経験者など各界で活躍したベテランで構成する「東京八王子プロバスクラブ」の会員が、市民と同じ目線で専門的知識について話しかける。ケーキとコーヒーも用意されるサロン形式の学習会は、肩ひじを張らないリラックスした雰囲気で人気を集めている。

東京八王子プロバスクラブは、現役を退いた60歳以上の人たちが、培ってきた経験と知識を生かせる場を作ろうと、1995年に設立された。

生涯学習サロンは、クラブの地域貢献活動の柱として、97年からスタートした。同クラブの大野聖二会長(79)は「会員の知識を分かりやすく伝えるには、講師が一方的に話す講座形式ではなく、話し手と同じ机で語り合った方が、交流にもなりいいと思った」と、サロン形式を取り入れた理由を話す。

スタートした時には、サロン形式で開講されるテーマは限られたものだったが、99年からは、教養や芸術、趣味などで16のテーマを設定。1回に四つのテーマで実施し、受講者は好みのテーマを一つ選択することができる。

今年も、「日本のチョウ」「リサイクル」「茶道」「ウオーキング」など多彩なテーマで開講されている。

受講者の7割以上がリピーターで、毎年参加者が増え続けている。テーマによっては、テーブルを囲めなくなるほどたくさんの受講者が集まり、人数を制限することもあるという。

元日銀職員の佐々木研吾さん(73)も、通貨や金融をテーマに3回、「話し手」を務めた。「別のテーマも参加したいという人もいて、関心はとにかく高い」と話す。開講は2～5月で、毎年1月に参加受け付けを行っている。問い合わせは東京八王子プロバスクラブ事務局（☎042・626・4343）へ。

読売新聞多摩地域版→
０６年４月２０日記事から

東京八王子プロバスクラブ

プロバスだより

第127号

編集・発行・情報委員会
２００６．６．８

http：//www.tokyo-hachioji-probusclub.jp

2005・7～2006・6 テーマ『夕やけのまちの明日を照らそう』

第１２７回例会（移動例会）

日時：　平成18年５月11日(木)

場所：　野外サロンに向かうバスの中

出席者：42名　67％　（会員64名　休会１名）

1. **野外サロン行程説明の後、徳永例会委員長の司会で開会**
2. **濱野副委員長の挨拶**
   - 野外サロンの後は、閉講式とさよならパーティを残すのみです。閉講式とさよならパーティの出席者は、42名と少なく、大勢の皆様の参加をお願いします。
   - 南ロータリー20周年記念には、多くの皆様の参加をいただき、協力に感謝致します。
   - 野外サロンは、一般の方を最優先にする様、協力をお願いします。心配された天気も好天の模様でなによりです。本日の企画をされた地域奉仕委員の皆様に感謝すると共に、今日一日リラックスし、芸術を楽しみましょう。
3. **幹事報告(佐々木幹事)**
   - 野外サロンは、一般の方との交流、親睦を図ると共に、展示品等を観る場合一般の女性を優先的に前方におねがいしたい
   - 4月20日付読売新聞の多摩地域版に、学習サロンの紹介記事が掲載された
   - 南ロータリーの20周年記念行事の協力は、全員協力と云う事で、４月19日の先方例会日に、会長と共に出席し、皆様のご芳志を進呈してきた。なお記念品としてネクタイを頂いて来ているので、６月の例会日にお渡しする
   - 市より「市長と語るタウンミーテイング」に出席してほしいとの依頼があった。質問、意見のある方は、事前に申し出て欲しい
   - 下田副幹事より、５月21日(日)の10時～３時半まで,富士森公園のグランドと体育館にて,“健康フエスタ０６”が開催される。当クラブは、受け付けと案内を担当します。健康に関する種々の企画があるので、参加していただきたい
4. **委員会報告**

①会員委員会　(野末委員長)

６月例会で披露しますが、３名の新入会員を委員会で審議する予定。今年度は合計８名の新入会員が入った

②情報委員会（橋本委員長）

- 126号のプロバスだよりを本日配布。読売新聞の学習サロン紹介記事も掲載、保存版としたい
- サロンの冊子は編集を始めた。記録者は情報委員が行っているが、確実な内容紹介は、話し手の原稿が基になるので、相談して纏めていただきたい。冊子は来月発行予定で、我々の任期中に処理したい

③研修委員会（八木委員長）

学習サロンでは、お茶の会と、写真の会の活躍で好評を得ており、今後、囲碁の会、ゴルフクラブの活躍も期待。新しい同好会として、歴史研究会が立ち上がる予定

④地域奉仕委員会（矢島副委員長）

学習サロンの閉講式及びさよならパーティは参加者が少ないので、今からでも申込を願いたい

⑤例会委員会（徳永委員長）

- 第10回生涯学習サロン閉講式及び「さよならパーティ」５月25日14時30分～19時。当日、総会後の懇親

会費用４千円を徴収

・次回例会、総会及び懇親会。　６月８日　16時30分～20時、場所　八王子エルシィ

5. **各同好会報告**

＊ 囲碁同好会　５月５日９時～17時　台町市民センターで春季囲碁大会を開催
参加者１６名で、一人５局以上対局し、優勝は鶴田さん

＊ ゴルフクラブ　５月18日　武蔵野CCにて、八王子南ロータリーと合同コンペを開催予定。　参加者は南ロータリーが10名、プロバス14名

第10回野外サロン

5月11日、「山梨の歴史と文化を訪ねて」をテーマに、一般会員36名、プロバス会員42名が参加して研修した。文学館では、芥川龍之介、飯田蛇笏等の他、山梨ゆかりの作家として、樋口一葉、井伏鱒二、太宰治他の展示を観る。ミレーの美術館として知られる山梨美術館では、「種をまく人」「落穂拾い」の他、バビルゾン派、日本の有名作家の作品を鑑賞した。昨年10月オープンの博物館では、山梨特有の歴史、文化、産業の紹介を観る。メルシャンのワイナリーではワイン資料館をみて、テイスティングと土産購入、昼食は山梨の郷土料理の「ほうとう」や「そば」で、心配された雨も降らず1日を楽しんだ。

南ロータリークラブ創立20周年記念式典

わがプロバスクラブの産みの親である東京八王子南ロータリークラブの創立２０周年記念式典が、去る4月26日エルシィを会場として挙行された。今回のスローガンは「防犯・防災に強い安全・安心な町づくり」で八王子市にミニパトカー2台,無線機11台を寄贈,国際ロータリー第2750地区ガバナーから表彰されている。当日のプログラムは午後4時からの式典に続いて、立正大学文学部の小宮信夫助教授の講演「子どもたちの安全と地域防犯」、終わってから懇親会の構成で、ロータリー関係者ほか総勢323名出席した。当クラブも全員登録の体制で対応し30名の会員が出席し敬意を表した。

投稿　私とモンゴル　－ガールスカウト・モンゴル学校植樹奉仕活動－

立川　冨美代

交流のきっかけはプロバスクラブ

プロバスクラブの会員となった10年前、同時に会員になり現在病床にふせておられる桂氏によって「私とモンゴル」を結んでくださいました。次節からは、日本モンゴル協会より依頼を受けて2005年に、「日本とモンゴル」と言う本に投稿した文です。

文の中をお読み頂ければ、昨年モンゴル・ウランバートル市・バヤンゴル区長より、日本人で初の勲章を頂いた経緯がお分かりいただけると思います。ガールスカウトを育成することが、40年前からのライフワークであり、40数年過ぎた今でもこの活動が素晴らしく、新鮮な感動を与えてくれることに感謝をしております。

はじめての訪モンゴル

2002年8月29日 夕刻モンゴル・ウランバートルの空港に降り立ちました。私のモンゴルの師匠である、桂元二氏ほかガールスカウトの仲間７名とでした。夕刻というのに陽は高く、秋でもないのに遠く連なる山々は薄茶色に染まっていました。

戦中に生まれた私は戦後の厳しい生活を良く覚えているのですが、日本のあの頃と同じ！と思ったのが第一印象でした。でもなぜか不思議になつかしい風景であったのは、同じモンゴライドとしての血でしょうか。案内して頂いた桂氏は、印刷技術をウランバートルに指導にいかれてたくさんの弟子や友人がおられます。

其の方々にお迎え頂き、市内はもとより、南ゴビ砂漠、カラコルム、モンゴルの古い文化etc. 感動、感動が続きました。時々ホテルの水が出ない・・電気が消えた・・其の折々に驚き、笑いました。でも何よりの感動は　やはり南ゴビの満天の星。夜中に視野の幅一杯で手のひらに舞い落ちてくる様な星の数々。もう本当に声も出ないほどに見続けておりました。この訪問は目的がありまして、私が現在取り組んでいる「緑化活動」で国際緑化にモンゴルを候補にしたので、その下見も大きな目的のひとつでした。「学校緑化奉仕」については後述いたします。

モンゴルとのかかわり

私がモンゴルに興味を持ち始めたのは、今から10年前に、モンゴルの師匠とお呼びしている　桂氏と知り合ったからです。印刷技術を教えに行かれて以来、モンゴルに物凄いエネルギーを注いでおられ、その情熱にいつしか惹かれていったのです。商売先の友人がメリヤス生地が要らないからといってくれたのを送る事にしたり、古い靴を集めたり、ゾド（厳しい冬の寒さでたくさんの家畜が斃死する害）の折には支援の為のコンサートも開きました。アンガル君という桂氏の指導を受けた素晴らしい青年とも知り合いになりました。どんどんとモンゴルとの輪が広がっていったように思えます。ウランバートルに来てくださいとアンガル君に何度も言われて、モンゴルをこの目で見て感じたいと思うようにもなりました。そんな折に桂氏から訪問のチャンスを頂きました。緑の少ない学校に緑も贈りたいと思ったのも実際にこの目で見たからで、はじめての訪問の時には本当に緑を贈ることが実現できるか半信半疑で帰って来たのでした。

ガールスカウトの奉仕活動の中に「緑の募金活動」があります。毎年たくさんの募金をしています。募金をした総額の中から交付金を頂く事が出来ます。それを基金にして、東京都下に４つの森をもっております。40数年前に御岳の第１の森に植樹をしてから、第２は氷川、第３は奥多摩、第４は八王子と「スカウトの森」として体験活動の場にしております。そのような活動を続けているうちに国際緑化が出来ないものかと探り始めたのですが、緑の欲しい国は発展途上国であり、私たちは少女を連れての行動ですので、安全第一を考えますと相当の制約を受けますので相当慎重に検討しておりました。

国土緑化推進委員会が公募をする「地球温暖化防止の森林ボランティア」の国内版には毎年応募をして、保林、育林作業を続けておりますが、其の公募のなかに「国際緑化・学校・公園の緑化活動」を見つけまして、今までのモンゴルとのかかわりの中でモンゴルの学校に緑を贈ろうと決めました。決め手になりましたのは、アジアの親日国である、テロなどない安全な国である、緑が少ない国である、そしてやはり受け入れて下さる友人が多くて安心してスカウトを連れて行ける　などが理由になりました。

応募に対しては外モンゴル・ウランバートルを対象にしたこと、受け入れ側がしっかりしていることの理由を高く評価して頂き助成金を出して頂けることになりましたが、条件として、隔年で５回、10年のスパンで続ける事でした。

たくさんいる高校生スカウト対象に募集、「なぜモンゴル学校緑化奉仕事業に応募したか」の作文を出させました。長い間の緑の募金活動によって緑の環境問題に大変適格な作文を書いてくれたスカウトがたくさんおりましたことはとても嬉しいことでした。

６ヶ月間をかけて事前研修をしてモンゴル訪問に具えました。また実務担当は現地と滞在期間中を無事に過ごせる為の準備をＥメールによって進めました。何しろ遠い国。一寸様子を見にとは行きません。其の上送った質問にたいする返事の遅さ！！日本人にはとうてい考えられないスピードでした。本当にウランバートルにスカウトと降り立った時に頼んでおいたことが無事に出来ているか。夢に出てくるくらい心配をしました。2003年8月20日25人のスタッフ・スカウトがモンゴルの地に着いてから１週間、全てのプログラムがきちんと整い、実行できた事は本当に感謝とともに感動をいたしました。アンガル青年を中心に隅々に心がくばられておりました。

緑を贈る「オユニ・ウンドラ学校」には4月から作業員が入り、3000本の唐松、もみの木、潅木類等の植樹が

進んでおりました。8月は木を植えるには適しない時期なので、5月には殆んどが植えられ、私たちは残りの20本くらいを学校の生徒たちと植樹をしました。素晴らしい記念碑も建ててあり、皆で除幕式も行いました。植樹後のメンテナンスは生徒たちが行ってくれます。贈呈式も無事終えて楽しい交流会も持ちました。日本とモンゴルの子どもたちによるお互いの国の文化を見せあいました。それにしてもモンゴル人はパーティ好き、踊り好き、本当に楽しそうに歌い踊ります。スカウト達も負けずに　東京音頭、阿波おどりなど見せたのですが、踊りの輪の中にどんどんと入ってきて、日本人と変わらない踊りを見せてくれました。

将来緑の木々の下で楽しく遊ぶモンゴルの子どもたちの姿を心に描いております。

1年後の2004年8月末、一人でウランバートルに行きましたが、前年に植えた木々は緑濃く元気に育っておりました。

モンゴル・ガールスカウトとの交流

モンゴルにはガールスカウトが500名くらい活動しております。モンゴル連盟も今のところ世界連盟の準会員としての立場で、国と同じ発展途上です。制服もないスカウトが多く、でも熱心なリーダーによって素晴らしい指導を受けております。

ナショナル・チルドレン・センターには常にスカウトのグループが集まり、集会、活動をしているようです。私たち一行も一泊して交流をしました。

モンゴルブルーの空の下、センターポールにガールスカウト東京都支部旗がへんぽんと翻るのを見たときは感慨無量でした。やはり国際緑化と一口に言っても長い道のりであったなあと思いました。たくさんの人たちのご援助、ご協力があってこそ実現できたものと思います。

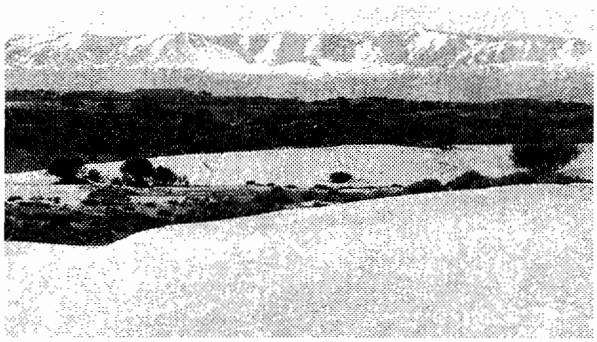
これからのこと

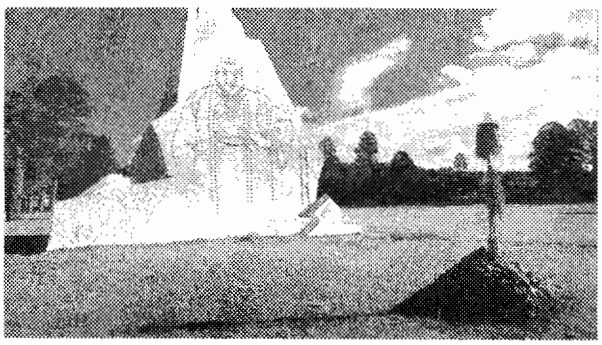
国土緑化の公募も許可が下りまして、今年2005年8月17日から第2回目の緑化奉仕に参ります。今回もまたアンガル青年にお世話になり、「第28番学校」に前回と同じように約3000本の木々を贈ります。今回は17名で訪問いたします。

緑を贈るだけでなく、ガールスカウトがモンゴルの文化にふれ、雄大な自然を見て今後の彼女たちの人生にどれだけ大きなものを与えられるだろうと、指導者として胸がわくわくするくらいの思いです。

地球の温暖化が進み、様々な事で地球上の生物が危機に瀕しています。私たち一人一人が環境について少しでも考え実践したら、もっともっと良い環境になるでしょう。

少女たちの指導・育成を通して私たちもたくさんのことを学びます。モンゴル学校植樹奉仕事業によって冷害に苦しみ、厳しい環境のもとで暮すモンゴルの人たちを知りました。今後も私たちで出来る範囲での支援は続けて行くでしょう。次々と後輩につたえながら。





東京八王子プロバスクラブ

プロバスだより

第128号

編集・発行・情報委員会
２００６．７．１３

http：//www.tokyo-hachioji-probusclub.jp

2005・7～2006・6 テーマ『夕やけのまちの明日を照らそう』

第１２８回例会

日時：平成18年６月８日（木）16:30～17:10
場所：八王子エルシィ
出席者：53名　出席率80％　（会員総数　67名　休会　１名）

１．徳永例会委員長の司会で定時開会

２．大野会長挨拶

早いもので今日で一周年となり、私の担当する最後の例会になりました。なお本日は南ロータリークラブからご来賓として３名のご出席をいただきました。また今月は今期最高の新入会員３名をお迎えすることができました。後ほどご紹介させていただくこととして、私のご挨拶は終らせていただきます。

３．来賓紹介・挨拶

八王子南ロータリークラブから広瀬副会長、加賀谷パスト会長、梶原20周年実行委員長の３名が出席。

梶原20周年記念事業実行委員長挨拶

４月26日に私どもは創立20周年を迎え記念式典を開催しましたが、当プロバスクラブからも多数ご出席をいただき、また総数約300名のご参加により盛大に行うことができ感謝いたしております。

私どもは20周年を機にテーマとして「防犯・防災に強い安全・安心な町づくり」を掲げました。そこで私どもは、この広い八王子の町で子供達の安全・安心を守るために、何かできないかと考え、その一助になればと、八王子市にミニパトカー２台、無線機11台を寄贈いたしました。

立正大学の小宮信夫先生に「子どもたちの安全と地域防犯」をテーマに講演をしていただき、これが町会や団体などから反響があり子供たちの安全・安心のための施策立案に役立つことになりました。

私どもは、このような時機にかなったテーマで活動することが大切であると認識し、20周年を機にさらに心を引き締め、奉仕団体としてより社会に資する活動を行い、些かなりとも貢献していきたいと思っております。

4．新会員[多村繁樹氏・山元哲夫氏・市川昌平氏] 紹介と会員バッジの贈呈

１）紹介者　杉山友一氏　多村繁樹さんは、市内めじろ台にお住まいで、お仕事は京王電鉄に長らく勤務され、企画広報から、ホテルの建設を担当され、さらに京王プラザホテルの札幌と新宿の営業を統括され、ついで両ホテルの社長を歴任、現在は相談役になっておられます。過日ゴルフをご一緒した折にプロバスクラブのご紹介をしたところ、早速に趣旨をご理解いただき今日に至りました。

多村さんはプラザホテルを今日まで育てた実績に見るようにホスピタリティのプロでございますので、クラブや八王子の町のためにご尽力いただけると思います。

２）紹介者　大野聖二氏　山元哲夫さんは東急建設におられまして、大変八王子の街造りに貢献された方で、八王子の駅前にある東急スクエアの学園都市センターも中心になって開設に尽力なさった方です。

またロータリークラブにも入会されて、たしか前年でしたか、企画担当の副幹事になりまして、地道にコツコツと仕事を進めていただきました。

ところで50の手習いでしょうかマラソンを始められまして、毎年ハワイに行かれて42.195キロのフルマラソンを走っておられます。お人柄はまじめに努力を重ねる、心くばりの豊かな人です。これから仲間に入っていただきまして一緒にクラブライフを楽しんでいただきたいと思います。

３）紹介者　小林時雄氏　市川昌平さんは、入会の動機が当クラブの学習サロンに参加されて、クラブの趣旨に賛同され、仲間に入れて欲しいと申し出をいただいた方です。

住まいは元八王子で、その地域の自治会の設立に尽力され、初代の会長として会を運営されましたが、会社定年後の地域に貢献できる活動の場として、当クラブを選ばれたということです。

お仕事は、一部上場の前澤工業（株）でバルブ営業部長を担当、その後、前澤給装工業（株）監査役を歴任いたしました。一部上場会社の大事な役職をなさった方で、人格その他申し分のない方です。

5．幹事報告（佐々木幹事）

今回入会された３名の方の概要は資料に記載。当クラブの平均年齢は71歳強だが、このお三方の入会で確実に平均年齢は下がる。

先ほど南ロータリーの梶原様から20周年のお礼のご挨拶があったが、その会で私どもの協力に対して記念品をいただいた。それを本日お帰りにお渡ししする。

6．各委員会報告

1）会員委員会（野末委員長）

今日は３名の新会員をご紹介したが、これで今期は８名の新会員の増となった。委員会の皆様のご努力、ご協力に感謝する。

2）情報委員会（橋本委員長）

「プロバスだより」は原稿を集めるのが大変だと申し上げてきたが、127号はよい投稿をいただき、無事発行できた。「サロンの冊子」の原稿は、90パーセントできており、あと２編を残しているが、今月中になんとか纏めたい。

なお情報の仕事は、今日の例会を記録する128号までが責任となっているので、何分ご協力をお願いする。

3）研修委員会（八木委員長）

今年度は卓話として、阿部和也会員「医薬製剤用の“良質の水確保”について」、平文夫会員「相続時精算課税制度」、下田泰造会員「とげぬき地蔵御縁起抄」、長谷川貴訓会員「私の小さなセレンディピティー」を聞かせていただいた。

11月の野外研修は「国立スポーツ科学センター」「北区飛鳥山博物館」「渋沢史料館」「紙の博物館」「とげぬき地蔵」などを見学した。

同好会については６月に「歴史を肴に語ろう会」が発足、おかげで何とか研修委員会の責任を果たすことが出来た。

4）地域奉仕委員会（永井委員長）

生涯学習サロンも無事終了した。後は情報委員会で担当のサロンの記録冊子が完成するのを待って精算できれば役割が終了するので、記録冊子のほうをよろしくお願いしたい。

5）例会委員会（徳永委員長）

例会運営のための準備などをしてきたが、年間の平均出席率は85％でした。その中で正月と野外研修、野外サロンでは60～70％の出席率でした。このあたり一工夫必要かと思う。また例会は親睦を大切に考えた楽しい会にしようと考えたが、今の時間の設定ではなかなか実現が難しく、このテーマは次期の委員長さんに引き継いでいただきたい。

なお、次回の例会７月13日は12時30分から、当日新年度会費の半期分を徴収したい。服装は７月から９月まではノーネクタイの軽装でご出席下さい。

7．各同好会、クラブからの報告

1）ゴルフクラブ：５月18日のコンペは南ロータリークラブの会員がご逝去され、当日ご葬儀でしたので中止した。ご迷惑をお詫びする。次のコンペは10月19日を武蔵野CCで予定。詳細は別途連絡。

2）写真同好会：撮影旅行会を計画したく、この会が終わったらすぐに打ち合わせたいので、会員の方々ほかお集まりいただきたい。

3）歴史同好会：６月６日に第１回の史跡巡りを実施。広園寺、高宰神社、真覚寺を巡り、野鴨の家で懇親会。参加者１７名。今後の活動など決定、会の名称「歴史を肴に語ろう会」、活動内容①講師を囲んで

の勉強会。②会員の研究テーマ披露・情報交換③史跡および資料館巡り。開催の頻度　年７～８回。

第２回の史跡巡りは７月25日に横浜歴史博物館、大塚歴史公園、横浜中華街。詳細は７月13日例会日に案内する。会員募集中なのでふるってご参加願いたい。

第１０回定期総会

日時：平成18年６月８日（木）　17:10～17:50

場所：八王子エルシィ　　４階

出席総数：66名　（本日の出席　53名、白紙委任　13名）

１．開会

司会の佐々木幹事が定期総会の開会を宣言し、会員数67名中、出席総数66名、総会成立を報告。

２．議長選出

司会から恒例により大野聖二会長を議長に選出したい旨の提案があり、拍手をもって承認された。

３．大野議長挨拶

当期前半は10周年の記念事業があったが、実行委員会を始めとして皆さんの献身的な努力によって、陸上自衛隊東部方面音楽隊の市民会館での演奏会、その後の10周年記念式典とレセプションパーティが、盛大に行われ、また10周年記念誌を発行できたことは感謝にたえません。また後半では生涯学習サロンが新構想のもと大勢の講師で担当する新機軸を展開するなど、立派な成果を挙げられた。後で幹事から報告があるので省略するが、会員の皆さんのこの１年のご活躍に厚く御礼申しあげます。

４．議事録の書記と議事録署名人

大野議長から、議事に入る前に、議事録の書記に阿部和也会員、長谷川貴訓会員を、議事録署名人に矢島一雄会員、広瀬智子会員を推すことを提案、承認可決された。

５．議事

１）１号議案　事業報告（2005年７月～2006年６月）

佐々木幹事から報告

当期のテーマ「夕焼けのまちの明日を照らそう」のスローガンの下に展開した事業を振り返り、別紙「東京八王子プロバスクラブ事業報告」をもとに報告、10周年記念事業（自衛隊音楽隊演奏会、記念式典、記念誌発行）は多くの市民の支持を得て、今後の10年に向かって、一つのエポックを築いたのではないか、また、新しい趣向を取り入れた生涯学習サロンは事前に朝日新聞、開講中に讀賣新聞にそれぞれ紹介され、さらにより多くの参加者を得たことを強調した。

① 会員の動向：期初会員数62名　内休会２名　入会８名　退会・逝去３名
　　期末会員数67名　内休会１名

② 例会・総会：前半の時期は記念事業の準備に相当の時間をとられ、会員の親睦をはかるという面でやや不足があったが、例会全体を通じての出席率は、野外研修、野外サロンのバス旅行という条件を含めても85％はかなり高い率ではないかと思う。

③ 理　事　会：概況は別紙報告書に記載のとおり。会員の名札を吊り下げ方式にしたことや会員相互の慶弔時の対応について検討し、一部修正してプロバスだよりに収載したことなどを補足した。

④ 生涯学習サロン：メインテーマは「自然」とし、特別講話「宇宙開発の夢と現実」、「八王子の地形と気象」など天と地の話。新企画として、パネルディスカッション「魅力ある学園都市づくりに向けて」、雨で野外は中止になったが「野外でのデジカメ講座」、「茶道と茶席の楽しみ」では第一部でお点前を賞味、二部では使われた道具、掛け軸などの解説を行い、総合芸術としての茶道を紹介した。これらの結果は朝日、読売の二紙に当プロバスクラブの活動記事として紹介された。

⑤ 創立10周年記念事業：別紙に要約を記載したとおりで、集まった1600人もの心に感動与え、大きな成果をあげた。

各委員会の活動等については次のように付言した。

例会委員会：欠席の会員には資料を送付するなど、きめ細かに連絡を取った。その成果は出席率に現れ、例会は85％、野外研修・サロンを除くと88％の高出席率であった。例会が限られた時間内で有効に審議されるよう配慮した。

情報委員会：読み易い「プロバスだより」の発行。「プロバス創立10周年特集号」の発行。最近の情報機器を使って編集作業の合理化を図った。

会員委員会：少ない審議の場に、資料を提出され多忙な中で８名の新会員を迎えることができた。

研修委員会：野外研修では、あまり行く機会のない北区飛鳥山方面を散策できた。4名の卓話は、フレシュなテーマで印象的だった。

地域奉仕委員会：生涯学習サロンは④に記載したような新企画で実施。参加者は140名。本サロンについては朝日、讀賣の２新聞に当プロバスクラブの活動記事として紹介された。

１号議案、とくに異議なく承認された。

２）第２号議案　次年度役員選出

議長より、会則第９条の規定により、理事９名、会計監査２名の選出を行いたいとの発言があり、配布の「2006～2007年度　役員人事（案）」の承認を求め、拍手をもって承認可決された。

次に、運営細則の規定に基づき、新理事の分掌が、濱野新会長から発表があった。

理　事	会長	濱野　幸雄	理　事	地域奉仕委員長	矢崎　安弘
理　事	副会長	宮崎　浩平		会計監査	山下　安雄
理　事	幹事	鶴田　金通		会計監査	中野　義光
理　事	副幹事	岡本　宝蔵	会長委嘱人事		
理　事	例会委員長	下田　泰造	全日本プロバス協議会副会長（地区担当役員）		
理　事	情報委員長	荒　正勝			立川冨美代
理　事	会員委員長	澤渡　進	事務局長		岡田　尚
理　事	研修委員長	米林　伸恭	I. T.（ホームページ）担当		武田洋一郎

３）第３号議案　「活動準備資金」の設定について

今後の記念事業や対外活動など特定の目的のための資金を積み立てるもの。内容審議、「目的、資金の使用方法を成文化する」、積立てる金額は一人年額4,000円とすることが決議された。

6. 旧役員退任挨拶

7. 新年度会長挨拶

当年度は10周年という記念すべき年であったが、次年度は新たな10年に向かっての初年度としたい。スローガンは『豊かさをもとめて プロバス・ライフを楽しもう』。具体的な内容は次回例会でご承認をいただきたい。

なお新役員は平均年齢68才と若く、在籍年数１年未満が２名、５年未満が７名とクラブ経験の少ない者どうしであるが、これから1年間、皆様方の熱いご声援を得て頑張っていきたいと思う。

8. 全日本プロバス協議会についての報告

立川冨美代協議会副会長より、全日本の活動状況、各地のクラブ設立の状況、全国協議会の今後の予定など、詳細な報告があった。

9. 第10回定期総会閉会

懇親会　18:00～20:00

下田泰造副幹事の司会で開会、藤野豊第２代会長の音頭で乾杯後、食事、懇談、新入会員のカラオケなども披露され、和やかな一時であった。

東京八王子プロバスクラブ

プロバスだより

第129号

編集・発行・情報委員会
２００６．８．１０

http：//www.tokyo-hachioji-probusclub.jp

2006・7～2007・6 テーマ『豊かさを求めて　プロバス・ライフを楽しもう』

第１２９回例会

日時：平成１８年７月１３日（木）１２：３０～１４：３０
場所：八王子エルシィ
出席者：５４名　出席率８２％（会員総数６６名　休会３名）

１．下田例会委員長の司会で開会

２．濵野会長挨拶

今日から新しい年度（１８年７月～１９年６月）が始まりますが。私を初め新理事全員が、前進の気持ちで努力してまいりますので、この一年、皆様方のご支援をよろしくお願い致します。

また本日は、ご多忙のところ八王子南ロータリークラブの副会長加賀谷惠様、クラブ管理運営委員長高井昇様、また東京多摩プロバスクラブの会長鈴木達夫様、副会長平田哲郎様、幹事滝川益男様のご臨席を賜り、初例会が開催できることは大変光栄に存じます。

今日は初例会で議題が盛りだくさんですので、早速に、今年度の運営方針をご説明したいとおもいます。この１年間のテーマと致しましては『豊かさを求めて　プロバス・ライフを楽しもう』というものです。これは私が読んだ五木寛之の「百寺巡礼」の中に書かれていたことですが、古いインドでは人の一生を４つの時期に分けて考えていたようです。１つ目は学生期（ガクショウキ）：若いうちに勉強をし、経験を積む時期で、社会人になるまでの期間、今ならば２０歳までの時期です。２つ目は家住期（カジュウキ）：社会に出て人として一家を構え、仕事に精を出す時期、会社や役所で定年まで働く期間、２０歳から６０歳までです。３つ目は林住期（リンジュウキ）ですがこれは後で説明します。４つ目は遊行期（ユギョウキ）：人生の締めくくりの時期で心おだやかに過ごす時期と書いてあります。

実は３つ目の林住期が面白くて、これは仕事をリタイヤして、自由な時間がいっぱいあって、人生の一番充実した時間を持つことが出来る、６０歳、７０歳、８０歳代、人によっては９０歳代まで林住期であると言えるかも知れません。まさにプロバスクラブ会員の皆様は、この林住期そのものの中におります。この良い時期を有意義に過ごしてもらうと言うのが趣旨です。それをサポートするのがプロバスクラブの活動だと思います。従いまして今年のテーマを『**豊かさを求めて　プロバス・ライフを楽しもう**』と云うふうに決めさせていただきました。

具体的な活動は従来の慣例に囚われることなく、各委員長の新企画に期待していますが、１０周年記念誌に述べられた会員の意見、希望など、また１２８回に及ぶ例会の議事録とも言える「プロバスだより」をよく見直して、その中から温故知新の精神で次の三つを基本に運営していきたいとおもいます。

⑴ 地域に根ざしたクラブを目指す。－地域関連の行事に積極的に参加する－

これは、全日本プロバス協議会立川副会長のレポートからの引用ですが、地域に認知されたクラブほど、その活動が活性化しているとありましたが、まさにこのことだと考えテーマとしました。

⑵ プロバスクラブの認知度をさらに高めるための広報活動に力を入れて、社会に存在感を広める。

広報担当・スポークスマンとして、それにふさわしい人を選ばせてもらって、その人のリードで、広報活動がより活発に出来ればと策を練っているところです。

⑶ ２００７年（団塊の世代の定年）問題を踏まえて、会員の増強のチャンスとする。

戦後昭和２２年（１９４７）から３年間で６９０万人の子供が生まれたそうですが、現在は年間１２０万から１３０万人ですから、当時は大変なベビーブームであった訳です。その人たちが来年から６０歳の定年を迎えることになり、前後を合わせると５年間で１、０００万人以上にもなり、その人たちが我々の仲間になりうる資格をもってくると考えますと、会員増強のチャンスであると思います。

具体的な実施事項

①会員全員の名刺を作り使って貰う。会員一人一人が広告塔になって同窓会や交流会等でグループの目的、趣旨など活動内容を宣伝して貰う。

②生涯学習サロンの進化：昨年はいろいろ進化があったがそれを更に進化させて貰いたい。

③例会の運営について内部交流の場の提供を考える。

④面白い卓話の継続：最近の卓話は非常に面白くなっております、そういうものを継続していきたい。

⑤会員の活動の発表：絵画、写真、文芸作品、俳句、短歌など、会員の自主的活動の宣伝（講演講師、ボランティアなど）、私の宝物などの紹介。

これらの施策を行う、今年度の理事には新進気鋭の諸兄に就任して頂き、当クラブとしては経験の浅い人たちばかりに入閣していただきました。これにより当クラブがより活性化するよう全員で知恵を出していきたい。皆様方のご理解と絶大なるご支援、ご協力をいただきこの１年を頑張っていきたいと思います。

３．臨時総会

⑴ 議長選出

濵野会長を議長に選出し、前年度決算報告・監査報告、並びに新年度予算案を審議した。

⑵ 前年度決算報告・監査報告

前年度決算報告は佐々木前幹事から、資料をもとに収支3,430,581円の内容説明があった。この予算の執行にはシビアに対処し、皆さんの協力を得てスモールガバメントで明瞭会計に徹し、ほぼ予算どおりに収めることが出来た。特筆すべきことは、期中に８名の新入会員を迎えたことで、これによる会費等の増収は予算に対して１１万円、また助成金５万円があり、収入は予算より１７万円増となった。

支出についても特別例会費１０万円減などにより、次年度への繰越金は２２万円増となった。尚、第１０回生涯学習サロンの決算報告書、収支1,971,968円についても詳細に説明された。

つづいて会計監査報告が石井充会員よりあった。７月１日に会計監査の関戸一郎会員と前年度の決算報告書、第１０回生涯学習サロンの決算報告書を、詳細に精査したところ、間違いの無いことを確認した。ただ心配なことは、年度始めに現金不足で、手元不如意になり、やり繰りが大変だったと推察された。

この報告に対して特に異議無く了承された。

⑶ 新年度予算審議

鶴田幹事より資料をもとに今年度の予算案の説明があった。　収支の部は3,375,977円、主な収入は会費２２３万円、特別例会費６８万円、前年度繰越金３４万円。主な支出は例会費１０５万円、特別例会費１０５万円で例年に準じた予算編成とした。６月例会で承認された活動準備資金は254,000と計画。

活動準備資金取扱い規定

１）積立金額：半期２千円／人（年額４千円／人とする）、会費納入時に徴収する。

２）目的：記念事業（周年行事）や対外活動の補助（ex. 参加費、登録料）など、一時的な出費に対応するべく積み立てる。

３）使用に就いては、理事会で審議し例会の承認を得るものとする。

４）資金の管理は別途会計として幹事が行う。

５）途中入会者については、会費納入時に活動準備資金２千円加算して徴収する。

以上の新年度予算については、拍手をもって承認された。

４．ご来賓紹介・ご挨拶

・東京八王子南ロータリークラブ：副会長　加賀谷　惠様、クラブ管理運営委員長　高井　昇様

・東京多摩プロバスクラブ：会長　鈴木達夫様、副会長　平田　哲郎様、幹事　滝川　益男様の５名の方々がご出席され、ご来賓を代表して加賀谷様からご挨拶並びにお祝金をいただきました。次いで高井様からは、南ロータリーのクラブ管理運営を担当することになり、南ロータリーの出席率を高めるため、プロバスクラブから、例会に出席して楽しい場をつくるというノウハウを持ち帰りたいとのお話があった。

５．幹事報告（鶴田幹事）

①委員会の構成：別表の組織表のように、各委員長の熱烈なラブコールによって５つの委員会は編成された。どの委員会も重厚な感じがする。各委員ともその点をご理解いただき、それぞれの大切な役割のある委員会が円滑に運営されますようご協力いただきたい。

会員総数は６６名、休会会員３名（近田、田中、小椰会員から休会届けが出ている。）

②会員全員の名刺作成：名刺の上に肩書きを加え、また過去の理事も年度を付して記載した。理事の経験の無い方は今年度所属の委員会の名前を書いた。裏面には特にプロバスクラブの趣旨を書いておいたのでクラブの説明などに使って欲しい。

③昨日、八王子南ロータリークラブへ会長と訪問した。ちょうど年度始めの例会日だったので、ご出席の八王子にある５つのロータリークラブの会長・幹事さんにもお会いでき、また濵野会長は例会の席でも当クラブの認知度を高めるようなご挨拶をしていただいた。

④プロバス関連報告：神奈川横須賀プロバスクラブが創立５周年を迎え、７月２１日に記念式典とパーティが行われる。これに大野前会長と佐々木前幹事が出席予定で、当クラブの最近の活動状況を踏まえたご挨拶の依頼がきている。また多摩プロバスクラブからも８月２日の例会に出席のご案内を受けていて予定検討中。

⑤各委員会依頼事項：後の各委員会で、各会の副委員長の選出と懇親会の日程をきめて欲しい。

⑥当会の会計は幹事鶴田が担当し、岡本副幹事には５月第３日曜日に市民健康の日があるが、その主催者八王子市健康づくり推進協議会の窓口担当とする。

「最後に私が心で感じました事を申し上げますと、私どもプロバスクラブは２月から５月にかけて、生涯学習サロンという大きなイベントがございます。地域社会への奉仕の一環として、いささかの緊張感と身が引き締まる充実期でもあります。また一方では第一線を離れ、これからの人生を何の束縛も無く会員の方々が年齢を越え、自由な立場で心楽しく、充実した、くつろげる場をも、求められています。例会の日が待ち遠しくなるような、笑顔と笑顔がふれあい、まさに、プロバスライフを楽しんで戴けるような環境を、皆様と共に作り上げたいと願っています。『豊かさを求めて』と、大変味わいある奥深い言葉でありますが、これを成就するには、簡単ではありませんが、会員の皆様、実現できますよう、何卒宜しくご支援戴きますようお願い申し上げます。」

６．各委員会報告（活動方針、他）

⑴ **例会委員会**　下田委員長：歴代委員長の言われていることを実行する。「楽しい会にするため」例会で委員会ごとの席でない時、一人一人の席を別々のテーブルに決めさせてもらい、そこに例会会員が参加して座を盛り上げる奇策。「欠席を無くし無駄を省く」ため、各委員長に２日前までに出欠報告をしてもらう、などなどで通常の例会の出席率９５％を目標とする。

⑵ **情報委員会**　橋本前委員長：今日プロバスだより第１２８号とサロンの冊子が完成し、後は市役所へ届ければ、１年間のルーチン業務が総て終了する。１年間の皆様のご協力にお礼申し上げる。

荒委員長：テーマ「プロバス・ライフを楽しもう」にそって、「会員相互の交流をより深める編集」を考えていく。会員が自由な立場で好きなことを何でも語ってもらう、自己を表現できるページを作っていきたい。

⑶**会員委員会**　澤渡委員長：会員増強目標を７名とし、その中に女性会員を１～２名何とか増員したい。

また資格審査のため、新会員の推薦状は例会の２週間前までにお願いしたい。会員の交流を密にするため、「会員の得意技を披露」する企画を是非やってみたい。

⑷**研修委員会**　米林委員長：会の目的は自己啓発の場の提供。野外研修のためのアンケートを実施する。

卓話は初めての人を優先し、資料作りなど話し手の負担軽減するよう考えていく。サークル活動は8つほどあるが、これを支援していく。また会員の作品展示の場も他の委員会と連携を密にして実施する。最後に構想段階であるが、何か新しいテーマを持った勉強会、研修会の場ができたら良いなと考えている。

⑸**地域奉仕委員会**　矢崎委員長：会長方針で生涯学習サロンの進化をはかると表明しているが、その直接責任を負う立場にいる。私はサロンの進化とは、受講者の満足度を高める内容のサロンにあると考えた。そこで是非会員の皆さん方の知恵を拝借したい。サロンの準備期間の第一歩を進めたいので、サロンのテーマ、野外サロンのアイデアおよびサロン運営全般についてご意見を伺いたい。８月例会までに是非アンケートの提出を願いたい。

７．同好会報告①歴史の会：会員募集と第２回歴史の会の案内。②写真同好会：乗鞍高原写真ツアーの案内。

８．各委員会打ち合わせ（10分間）

９．プロバスソング斉唱

11．閉会　宮崎副会長挨拶　一年間は非常に短い。あれもこれもと考えてもなかなか出来るものではない。方針、抱負はひとつ一つ肩に力を入れずに、プロバス・ライフを楽しみながらクラブを運営し、皆さん方の協力を得てよいプロバスクラブを作り上げていきたい。

投　稿

戦前の旧植民地での技術者教育

石田　文彦

小泉首相の靖国神社参拝を契機として日本のアジア外交は行き詰っている。これは、日本と中国・韓国等との、すなわち加害者と被害者との歴史認識の差に依存するところが大きい。例えば、私が接した中国人留学生は学校教育において、また親からの体験談等を通じて日中戦争－中国では抗日戦争と称する－のことを実によく知っている。一方、最近の日本人学生は日本が中国を侵略したこと、朝鮮が日本の植民地であったことすら知らないことに驚かされる。我々も、受けた害を恨み骨髄と後々まで覚えているが、加えた害については、記憶はおろか、加害の意識すらないことをしばしば経験する。その意味でも、歴史事実を専門家に封じ込めておくだけでなく、広く啓蒙することは重要である。そこで、表題の、私の研究の一端を紹介する。

欧米の植民地経営は少数の植民地経営者が本国から派遣され、現地人を使用して経営する「栽植植民地」方式であったが、日本はさまざまな階層が現地に移住する「移住植民地」方式を採った。このため、移住日本人の教育は重要な施策であり、また現地人の同化を教育施策の基本とし、普通教育・実業教育は日本人と現地人の分離を、専門教育・高等教育は共学を原則とした。しかしながら、旧「教育勅語」を基本にした同化教育政策は、激しい現地人の抵抗－教育権回収運動－に遭遇した。

日本政府は、旧植民地の関東州と南満州鉄道付属地、朝鮮、台湾、および満州国－中国では偽満州国と称する－に技術者を養成する機関を設置し、1945年の終戦時点で大学7校、高等工業学校5校、工業学校23校が存在していた。これらの学校は、それぞれ内地の「帝国大学令」、「大学令」、「専門学校令」、または「工業学校規程」に準拠していた。

外地での工業系教育機関の嚆矢は、1909年に関東州に創設された旅順工科学堂である。旅順工科学堂は官立の高等工業学校であり、機械工学科・電気工学科・採鉱冶金学科から成った。その創設は後藤新平の植民地政策の持論である「文装的武備」による満州経営策の所産とされ、「興亜」を校是とした。1922年に学堂が昇格した旅順工科大学は、外地で最初の大学であり、また日本で最初の工学系単科大学でもあった。ちなみに東京高等工業学校が東京工業大学に昇格したのは、その7年後であった。学長は関東長官(関東州の知事に相当)の監督を受け、関東長官が文部大臣の職務を行った。共学制であったが、中国人は学堂・大学の卒業生総数2,135人の8％に過ぎなかった。卒業生の約70％は外地に就職した。

朝鮮では1916年に京城工業専門学校が設立された。同校は紡織学科、応用化学科、土木学科、建築学科、および鉱山学科からなり、工業の基礎である機械・電気を専攻する技術者は養成されず、内地に依存する植民地的特徴を示していた。同校に機械学科と電気学科が増設されたのは、戦時体制となる1938年であった。同校の卒業生総数は2,251人であり、教職員の殆どと卒業生の70％以上は日本人であった。1941年には京城帝国大学に理工学部が設立された。

台湾は1895年と最も早く植民地となったが、食料・原料を供給する農業植民地として、とくに製糖業を中心とする農産物加工が主産業であり、工業化は遅れた。1930年代になると「南進基地」として、軍需物質の生産体制がとられ、1931年に台南高等工業学校が、1941年には台北帝国大学に工学部が開設された。日本人は高等工業学校の83％、工業学校の75％を占めていた。「満州国」においても、1938年に哈爾濱工業大学が、1940年に新京工業大学、奉天工業大学と私立北満学院が設立された。

終戦により、これら外地の教育機関は全て閉鎖され、建物・施設等は接収され、日本人在学生・卒業生の殆どは内地に引き揚げた。これら教育機関は、植民地を経営するための技術者を養成する機関であり、植民地工業化の主たる担い手は日本人技術者であり、日本資本系の企業であった。その特徴は、制度上は日本人と現地人との共学であったが、教職員の殆どと学生の多くは日本人であったこと、日本語で教育をし、日本人には現地語、現地人には日本語を必須としたこと等である。これら教育機関は、植民地統治の二面性、すなわち日本人主体の開発と資源の収奪により現地工業の自主的発展を歪めたが、経済開発による工業化・都市化を進め、また、戦後建物・施設等が継承されてソウル大学工学部、台湾大学工学部、哈爾濱工業大学等に発展し、それぞれの国で工学系中核の学部・大学となった。

東京八王子プロバスクラブ

プロバスだより

第130号

編集・発行・情報委員会
２００６．９．１４

http：//www.tokyo-hachioji-probusclub.jp

2006・7～2007・6テーマ『豊かさを求めて　プロバス・ライフを楽しもう』

第１３０回例会

日　時：平成１８年８月１０日（木）　１２:３０~１４:３０
場　所：八王子エルシィ
出席者：４８名　出席率７６%（会員総数６６名　休会３名）

１．下田例会委員長の司会で開会

２．濱野会長挨拶

皆さんこんにちは、本日は南ロータリークラブから多数ご参加をいただき有難うございます。

１０日遅れの梅雨明けが過ぎると、むちゃくちゃ暑く熱中症にならないのが幸という毎日ですが、このように皆さんがお元気な顔を揃えて下さると、我々としても本当に嬉しく思います。８月に入りますと終戦記念日も参りますが、戦後６１年、データから見ますと戦後生まれが４分の３を超える様になりました。従って戦争体験者が必然的に少なくなっております。我々も八王子空襲を経験しましたし、戦争の悲惨さ、平和の有り難さを語り伝えなくてはいけないと思います。私事ですが、８月１５日の昼食には今でも家族共々水団(すいとん)を食べて戦争の時の苦しさを子供達に話してきたつもりです。

今日私がこのようなクールビズの格好で参りましたのは、７８年暮れから８０年６月まで滞在したキューバに、とてつもない大きな紡織プラントを輸出しました。その生産量は当時１千万人と云われたキューバの衣料を半分ぐらいまかなう規模のものでした。その折に私と私の通訳と二人が国から頂いたグワァヤーベラというメキシコなどでも礼服に使っているもので、これをクールビズとして着用して来ました。私にとっては自慢のものです。キューバで品行方正ならば頂けるのではと思います。

もう一つご報告方々ご了承頂きたい事があります。これは全日本プロバス協議会の件ですが、同協議会の総会が９月１０日(日曜日)に尼崎で行われる予定です。立川副会長、補佐役の下山会員・鶴田会員の三氏の任期は平成１８年５月までとなっておりますが、これを総会開催まで任期を延長すること。次に全日本プロバス協議会の、現在の役員の留任が決まるものと思われますので、関東ブロック14（東京４、神奈川４、群馬６）の代表幹事である東京八王子プロバスクラブの立川副会長、下山会員、鶴田会員にも当然留任をお願いしたいということです。当クラブでもサポートしていく必要がありますので、この場を借りて皆様のご了承を得たいと思いますのでよろしくお願いいたします。有り難うございました。

３．来賓紹介・挨拶

本日のご来賓を紹介させて頂きます。国際ロータリー第2750地区　ガバナー・エレクト　坂本俊雄様
東京八王子南ロータリークラブ　会長　廣瀬武彦様　副会長　加賀谷惠様　幹事　西小野道徳様
米山奨学委員会委員長　小澤春美様

・**ｶﾞﾊﾞﾅｰ･ｴﾚｸﾄ坂本様**　皆様こんにちは、このプロバスクラブの発足当時のことをよく覚えています。大野さん、杉山さんその他の方が一生懸命努力してこのクラブを立ち上げられました。このプロバスクラブには尊敬すべき立派な方々が大勢揃っていて、今も石田文彦さんの論稿を読ませてもらい「移住植民地」のことも良く解りました。

・**会長廣瀬様**　今年の私のテーマは「**題名の無い八王子の再生計画**」として街角の論客に卓話を依頼して八王子を良くしようということ。またメインテーマとしては**ガスパール・カサドの国際チェロ・コンクール**をクラブとして全面バックアップすることにしております。私どもの力の及ばないところはプロバスさんのご協力を頂ければと思っています。

・**米山奨学委員長 小澤様**　坂本さんと大野さんと同じ米山奨学委員会の三人のメンバーが同じテーブルにつくことは本当に珍しいことです。米山奨学委員会とは日本で勉学されている留学生を心身ともに、金銭的な面も含めて援助する日本で一番大きな委員会です。

私は犬が大好きですが、成犬でも訓練できるところを見つけまして訓練に行きました。そこで犬の訓練は取りも直さず飼い主の訓練でもあることを知りました。犬をしつけるには飼い主の忍耐が必要です。犬が幸せに生活するには如何に人間社会に順応させるかにあります。わが家の犬の教育も後７回残っておりますので、私自身もどう変わるか結果をお話できると良いと思っています。

４．新入会員自己紹介

・**多村繁樹会員**　多村でございます、どうぞ宜しくお願いいたします。八王子プロバスクラブは皆さんが活発に活動され他のクラブから賞賛されている素晴らしいクラブなので、改めて敬意を表しているところです。

昭和１８年５月に満州で生まれ終戦と共に九州に参りました。当クラブの１０周年記念誌を拝見して武田洋一郎様が満州で３年先輩ということがわかり嬉しくなりました。ベストセラー「国家の品格」の著者藤原正彦（満州生まれ作家新田次郎氏の令息)の講演を聞いたり著書を読んだりして共感しています。地元の高校を出て東京の大学へ入り八王子に来て３２年、今はめじろ台に住んでいます。

京王電鉄に入社し京王プラザホテルに勤務しました。(札幌、新宿の両ホテルの社長を歴任) 昨年、ホテルの第一線を退いてから大好きなテニス、ゴルフで汗を流しております。相武カントリークラブの同好会で杉山先輩とご一緒した折プロバスクラブへの入会のお誘いを受け、いとも簡単に入ってしまいましたが、大変なところに入ってしまった"どうしょう"と言う感じです。気の小さい所もあって当分は隅っこで小さくなっておりますが、どうぞよろしく。皆様のご指導よろしく八王子のためになりたいと思います。

・**山元哲夫会員**　山元でございます。プロバスクラブに入会させて頂き有り難うございます。

昭和１９年に福井県に生まれました。大学まで福井におりまして(石田文彦さんが高校の先輩です)ロータリークラブよりプロバスクラブへ参りました。当クラブでは最年少かと思われます。東急建設に入りまして八王子では駅前の東急スクエア、郵便局等を手がけるなど５つ６つの建物が残っております。その他営業をして３８年間建設一筋に関わって参りました。

また４５、６歳の頃は丸々太っておりましたが酒を止めて大分体重を落としました。やれば出来るのだから運動をするようにと医者に言われマラソンを始め八王子の１０キロマラソンに出たことがあります。大学時代はラグビーをしておりましたので、５０の手習いとばかり、ホノルルマラソンに挑戦して４時間３６分ほどかかり、もうやめようと思いました。しかし今は年にフルマラソンを２回、ハーフマラソンを８回、毎月１２０～１３０キロ走っています。なぜ走るのかといえば、大会に出て走った後の爽快感と、途中で応援してくださるボランテアの方々に、常に走らせてもらっているという想いがあります。そういう感覚を味わいたくて、また体を鍛えて走ることになります。今後とも宜しくお願いします。

・**市川昌平会員**　こんにちは市川昌平です、宜しくお願いいたします。６月に入られた前のお二人がご立派な自己紹介をなされたので、私はいったい何をしゃべったら良いのかと思っています。

八王子に移って１０年になりますが、八王子に馴染めなくて困っていたところ生涯学習サロンに好奇心で参加させて頂いた折、皆さんが八王子を愛しておられるのが解りました。そして小林さん、佐々木さんからお誘いを受け、入らせて頂きました。それが間違いのもとで私の入る所ではないなあと思いました。

昭和１２年東京牛込の生まれで、２０年３月に疎開し、名古屋の駅前が焼けているのを見ました。疎開先の三重県上野市という忍者の町で忍者の子孫にいじめられました。２７年に東京に戻り転々として調布に住んでいました。仕事は前澤工業㈱でバルブ営業部長を担当、その後前澤給装工業㈱監査役を歴任しました。八王子では水道より下水でお世話になっています。食事のとき何時もは何をしているのですか？と言われましたが一日犬の散歩で終ってしまいます。家の犬は３２キロ位あり我が家で唯一私の言うことをきく家族です。

5．**幹事報告（鶴田幹事）**

(1)**各委員会の懇親会報告**：五つの委員会の懇親会は会員の皆様のご協力により無事終了した。各会員の活発な意見の交換が、クラブ活動の原動力でもあり、心から御礼申し上げる。

(2)**対外活動の報告** ①神奈川横須賀プロバスクラブ５周年記念式典が７月２１日（金）挙行され、大野聖二パスト会長、佐々木前年度幹事が出席した。

②東京多摩プロバスクラブ例会８月２日（水）、立川冨美代全日本プロバス協議会副会長より「八王子プロバスクラブの活動と全日本プロバス協議会について」卓話。同席者､濵野会長、鶴田幹事。
当日は例会後納涼会が開かれた。発足して７月で３年目に入る。活動状況は、特に小中学生を対象とした教育活動を展開（躾・礼儀作法、理科、ソロバンなど）夫々の学校から直接の依頼が来ている。また広報活動にも力点を置き多摩テレビ、ニユータウンタイムズ、ＦＭ多摩、各紙の地方版への宣伝を行い認知度の向上に力を入れる。立派な理念を基に一歩一歩着実に進んでおり、独自性を持った素晴らしいクラブになるものと感じられた。

③全日本プロバス協議会の総会　この件に関しては濵野会長が説明したので省略。（会長挨拶参照）

④群馬県「わたらせ」プロバスクラブから９月１４日（木）の例会に立川会員に出席の依頼あり。所在地；桐生市創立：1997年

⑤八王子市無料公開講座：東急スクエアビルの学園都市センターにて大野聖二パスト会長と平原パスト会長が講演を予定。申し込み・登録などは不要、先着順で直接会場へ。

講演月日	時間	講座名	講師名	会場	定員
H18年9月30日（土）	13：30～15：00	地域学と地域イベント（なぜいちょう祭りを）	大野聖二	第５セミナー室	56名
H19年1月27日（土）	13：30～15：00	歌で顧みる激動の昭和	平原俊彦	イベントホール	216名

6．**各委員会報告**

1）**例会委員会下田委員長**：①欠席届は必ずお願いします。②配席：委員会毎で１０名を超える時は、他の席に移ることがある。③資料の配布：今回から休会の方にも送付する。

2）**地域奉仕委員会矢崎委員長**：アンケートの提出をお願いします。

3）**情報委員会荒委員長**：①プロバスだより挨拶文は、想いが伝わるよう口語体で書いた。②石田会員が我々の知らなかった旧植民地の技術教育の事を書かれている。お読みください。

4）**会員委員会澤渡委員長**：①副委員長に八木会員を選任。②新入会員の紹介：クラブの活性化に資する人材のご紹介を願いたい。

5）**研修委員会米林委員長**：①副委員長に小林貞男会員を選任。②前回のアンケート提出をお願いします。

7．**同好会報告**

1）**歴史を肴に語ろう会　澤渡会長**：①７月２５日第２回史跡めぐり、参加者２１名、横浜市歴史博物館、大塚・歳勝土遺跡公園、横浜中華街と有意義な一日であった。②第３回歴史の会９月１９日（火）を予定。詳細は９月例会で。③新会員募集：現会員３１名、楽しく過ごしたく、是非参加下さい。

2）**ゴルフの会小林(貞)代表**：コンペ案内：今回は武蔵野ゴルフクラブを予定。参加申し込み９月３０日迄。当会のコンペは春秋の２回となっているが、隔月にもプレーしたいとの声がある。これには誰か別の人が中心になって、有志が２組か３組でゴルフを楽しんだら、ということになっているのでご了承下さい。

3）**お茶の会北川幹事**：９月１２日（第２火曜日）午前１０時長月のお茶会　阿部治子会員宅会費1,000円

8．**その他**　藤野会員より新しい刑事裁判制度に関わるテレビ番組紹介、ＢＳ日テレ（デジタル４）でタイトルは「評議」8月２７日（日曜日）午後3時３０分～４時３５分

9．**各委員会の打ち合わせ**

10．**プロバスソング斉唱**

11．**閉会　宮崎副会長**　先日は八王子祭りに暑い中、長時間、参加して未だに疲れが取れない状態でして皆様方も、暑い日には外に出るのもほどほどにして、これから迎える本格的な秋のシーズンに向けて、体調を整えていただきたいと思います。今日は長時間有り難うございました。　（例会記録　阿部幸子）

会員紹介

わが町の祭り

副会長　宮崎浩平氏

「子供の頃、山車を曳いたり、太鼓を叩いたりした祭りの楽しさの思い出は、八王子に生まれ育った人なら、誰しもが持っているのではないだろうか。」今年のサロンで宮崎浩平氏は語っていた。

八王子の旧市街地、大横町に生まれ育った根っからの祭り好き、その思いは今も変わらず、この町の町会長を務め、祭りの主催者になっていた。

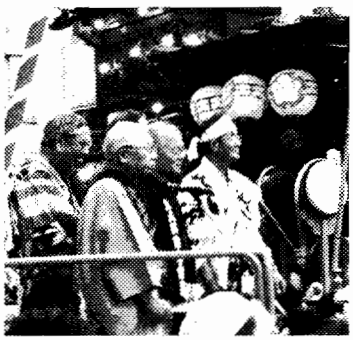
旧市街地では、八幡八雲神社の祭礼を「下の祭り」、多賀神社の祭礼を「上の祭り」として７月と８月に別けて行っていたが、今は両社合同で行い、「八王子まつり」と名を変え、「民謡流し」や「太鼓合戦」「獅子舞」などを加えて盛大に行われている。

８月５日夕方、昔「お十夜法会」が行われていた大善寺跡の脇の道路に、盛装して待機していた大横町の山車を見に行った。宮崎町会長は事細かにわが町の山車のいわれを語る。アマテラス大神の天岩屋。アメノウズメが踊り狂い、神々が笑いどよめく彫像が周囲を守り、正面唐破風の下にはワニに乗った仙人がギョロ目で大口を開いている。明治４５年建造の二層鉾台形式の山車。工匠は小町小三郎、彫工は小松光重。追分町と南町の山車も同じ彫工の作でいわば兄弟山車。先の戦火を免れた貴重な文化財である。

集まった町会の人たちに、町会長の挨拶、無事にこの巡行が終わるようにと祈願して、お神酒で乾杯。若衆が山車の屋根に登り、笛太鼓のお囃子が鳴り響き、獅子舞が始まる。「い～ち、に～の、や～い」と声を合わせ、大人に付き添われた幼児から小学生まで一緒に綱を曳く。それに町の父兄が、町会役員が続く。山車は八幡八雲神社と多賀神社の「お札」を正面左右の柱に戴いて、ゆっくりと氏子の家々を巡っていく。昔の先輩たちから受け継いだやりかたで祭りは進行する。

８月６日、朝８時には若者が担ぐ神輿が町々を通過する。子供が曳く山車との遭遇をさけるために時間が決められている。１５時からは甲州街道で千貫神輿の渡御がある。18時からは山車の辻合わせ。町会長は若衆を三分して、それぞれの祭りに参加させる。

15時30分、ふれ太鼓がドンと一つなる。町名などが墨書された大提灯が棹の先に掲げられ２０数本甲州街道幅一杯に広がって１０数歩進む、後に神官・宮司、さらにそろいの裃姿の氏子総代の人たち、各町会役員が並び進む。その後を交代の担ぎ手が出番を見はかりながら進み、最後に多賀神社の大神輿が静かな熱気を渦巻きながら、ゆさ-ゆさと数歩進みつ、戻りつ、また揺れながら進む。担ぎ手は神輿の重圧に５分と耐えられない、女も勇ましく担ぐが精々３分が限度、ふらふらになって列を離れ新手に代わる。ふれ太鼓が時折ドンとなる。なんとも壮観な、いにしえの行列を再現する。静かな感動が集まった見物人に、町中に広がって、たった１キロ足らずの道のりを、イザナギ、イザナミの神はゆらり-ゆらりと２時間かけて進んでいく。



18時近く、八日町の辻に山車５台が集合する。群衆が密集し身動きできない。そのなかを更に山車は間合いを詰めて接近し、お囃子を競い合う、ついに囃子と喧騒がピタッと止まる。集合した山車の各町会長、役員が紹介され、大横町の宮崎町会長もにこやかに壇上に登る。町内頭、囃子方、屋根方の若衆も紹介され、やんやの喝采を浴び辻は熱気の渦と化す。囃子再開、競演が始まり、盛り上がる。そこに山車の屋根から、舞台から一斉にくもの糸・紅白のテープがこの世の諸悪を絡めとるが如く飛びかう。年番の町会長から、祭りも残りわずか、皆で楽しもうと声がかかり、町内頭の音頭で「木遣り」が唄われ、最後に、八王子市制９０周年を記念して群集共々「いお～、しゃんしゃんしゃん」と「とうじめ」で締める。

囃子方競演開始。しばらくして電飾の山車は囃子の余韻を残し夜の町中へ消えていった。宮崎町会長は「これで７割の仕事が終わった」と安堵の表情を見せていた。

（取材　荒　正勝）